

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300430		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	くつろぎ保養館仙台東		
所在地	宮城県仙台市若林区長喜城字宮浦27-5		
自己評価作成日	平成25年6月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=0475300430-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=0475300430-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成25年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・明るく温かい家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様に合わせ1人1人、ご自分のペースで生活が送れる様に支援しています。</p> <p>・個々の能力を見極め、得意な事を発揮して頂き、出来る事や役割を持ち続ける事で、自分らしい生活が送れる様に支援しています。</p> <p>・利用者様、ご家族様にとって、居心地の良い生活の場を提供しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の南側には田園風景が広がるのどかな環境である。西側は造成中で復興住宅やスーパーが出来る予定である。敷地内には同法人の老健施設が併設され、研修や避難訓練を合同で行うなど協力関係ができています。「住み慣れた地域で自分らしく生活を送り、地域の中の一員として、一緒に歩んでいきます」の理念を掲げ、野菜を頂いたり、散歩時に挨拶を交わすなど、地域の方と馴染みの関係ができています。利用者が今年の目標を掲げたり、短冊に「願い事」を書くなど、生活に張りが持てるように工夫されており、訪問者にお茶運び、プランターの野菜を収穫するなど、穏やかな暮らしがうかがえた。利用料を直接事業者への支払いにし、家族が参加し易いように運営推進会議の日程を変更するなど、家族・利用者・職員がコミュニケーションを図れるように、また、ケアの質を高める為に職員は資格取得に向け努力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 くつろぎ保養館仙台東 ）「ユニット名 Aユニット 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差したくつろぎ独自の理念を掲げ、ユニット会議や、日々のケアの中で地域の中の一員として生活が送れる様に支援している。	「住み慣れた地域で、自分らしく生活を送り、地域の中の一員として、地域の方と一緒に歩んでいきます」の理念を各ユニットに掲げ、ユニット会議や職員会議で都度確認している。地域との交流や利用者がその人らしく自己決定できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や市民センター便り等で、地域の情報を得ている。また、施設周辺を散歩したり、地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話をする事もある。	町内会に加入し、回覧版にホームの夏祭りを掲載したり、地域の情報を得ている。夏祭りには地域の方も一緒に参加し、月2回、歌や紙芝居、傾聴ボランティアが来て交流している。散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂くなどお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の面会時や、運営推進会議等で認知症の方への関わり方をアドバイスしたり、相談したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。会議で提案された事や助言については、会議録をご家族や地域の方々に配布し、サービスの向上を目指している。	町内会長、包括職員、家族、民生委員、職員が参加し年6回開催、家族が参加し易い曜日に変更した。外部評価や避難訓練の報告、利用者のホームでの生活の様子などを写真で紹介し、理解が深まるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や生活保護課の担当者と連絡、相談を行っており、協力関係を築けている。	「まもり一ぶ」利用や、介護認定の変更に関わる相談など、介護保険課や生活保護課と日頃から協力連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、利用者様、1人1人に合った寄り添うケアをする事によって、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害について研修し、参加者全員がレポートを提出している。施錠は20時～7時迄で、玄関にセンサーを設置している。帰宅願望の強い方には傾聴し受容するように努め、気を紛らわせるよう工夫している。利用者への目配りなどの、地域の協力を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、職員1人1人が、高齢者虐待防止関連法について勉強する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修に参加している。また、利用者様の中にまもり一歩を利用されている方がおり、利用者様1人1人にあった、制度の活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、1つ1つ丁寧に説明している。分からない部分があった時には、時間をかけ説明する事で、理解されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中で要望等をお伺いしている。ご家族は、面会時にゆっくりと話をする時間を設け要望やご意見を伺っている。	家族が毎月の利用料を持参しての訪問時に、意見や要望を聞いたり、運営推進会議などで情報交換をしている。家族アンケートでも「職員は話しを聞いてくれる」との記述がある。介護度の区分変更に関しての不満や相談にも丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内で出た意見や提案は、その都度報告し、職員から出た意見を運営に反映させている。	ユニット会議や職員会議で意見や要望を聞いている。傾聴ボランティアと利用者との接し方や利用者の1日のスケジュールに関してなど提案あり、検討した。各種委員会が、職員の提案の場にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回、自己評価と共に人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老健と協力しながら、月に1回研修会を実施している。また、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し研修会や交流研修に参加し、より良い施設作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご要望やバックグラウンドを職員間で共有し、利用者様に寄り添いながら安心して生活を送って頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の利用者様に対する思いや要望をお伺いし、その思いを職員間で共有しながらより良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1人1人の状態や状況を職員間で話し合いながら、その方が今一番必要としているケアを見極めケアを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や本人の趣味活動等を一緒に行う事で、共に生活をする一員として過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様への思いを、ご家族と共有し、ご協力を得ながら一緒にご本人を支えていける様に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や、ご本人がそれまでに築いてきた関係の方々と年賀状、手紙、はがきのやり取りを行っている。また、電話でご家族と話をするなどやり取りも行い、関係が途切れない様に支援している。	自宅が若林区の利用者が多く、家族や友人などの訪問が多く、お茶を飲みながら、和やかに懇談できるように支援している。馴染みの長喜城神社に散歩する事が多い。馴染みの方がホームでカットしてくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒に作業を行い、1人1人に合った得意分野で役割が持てる様に支援している。また、作業の中で出来る方が、困難な方に対して手助けして頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移ってしまった方の面会を行っている。また、何かあった場合はいつでも相談して頂ける様に働き掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、希望や訴えを把握している。ご自分で訴える事が困難な利用者様に対しては、ご家族からも情報を頂いたり、日常生活の中での表情や行動から汲み取る様にしている。	入居時、家族から利用者の生い立ちなど情報を得て、理解し、ケアに活かしている。会話の困難な利用者には表情、行動、しぐさから何をしたいかをくみ取り、癖や習慣などを記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを活かし、ご本人やご家族からの情報を職員間で把握し共有する事で、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を把握し、ご本人に合った生活リズムで生活が送れる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、職員間で情報を集め会議で話し合いを行い、ケア内容を検討しながらケアプランを作成している。	毎月モニタリングを行い、カンファレンスを開き、3ヶ月に1回は再アセスメント、ケアプランの見直しを行っている。家族や職員の意見も参考にし、細やかなケアプラン内容になっており、家族への説明と同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常記録や個人ノートを活用し、職員間で把握、共有している。また、その内容をケアプラン作成時の見直しに活用出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に応じ柔軟なサービスを受ける事が出来る様に支援している。また、介護保険以外のサービス(医療保険での訪問リハビリ、訪問医療)も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や市民センター便り等で、地域の情報を得ている。地域の行事などに参加出来る様にチェックしている。地域の傾聴ボランティアさんに月に2回来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関で受診する事が出来ている。ご家族対応での病院受診の時には、施設での様子を伝える事により関係を築けている。	利用者の希望するかかりつけ医で、受診は家族が付き添う事になっている。受診結果は口頭で報告され、記録している。利用者の状態によっては老健の医師からアドバイスをもらう事がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおらず。受診時は係りつけ医に日常の様子を報告したり、訪問医師に報告したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にお見舞いに行き、病状などの情報収集を行っている。病院関係者や看護師等とも情報交換を行い、退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化については、その都度ご家族に報告している。グループホームでの生活が困難になってきた場合も、施設で出来る支援の説明を行い、ご家族と共有している。	看取りの実績はない。入居時に、事業所として重度化した場合の対応に関して説明をしている。都度、家族、主治医、職員の三者で話し合い、出来る事と出来ない事を確認している。	重度化した場合の対応方針を具体的に明文化する事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を行っている。新人職員も夜勤業務に入る前に応急手当の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を行っている。毎回、反省や改善点を職員で話合っている。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成している。毎月1回避難訓練や夜間想定訓練、年2回は老健施設との合同訓練を実施している。定期的な訓練が利用者にも定着し、素早く対応できるようになってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、その方の馴染みの言葉(なまり、方言)で分かりやすい様に話かけを行っている。	入職時に接遇についての研修を行っている。呼び名は本人に確認するなど、利用者や家族に対する言葉遣いや接し方に配慮している。利用者間の様子に気を配り、トイレ誘導はさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を話して頂ける様に声掛けを行っている。表現する事が困難な方に対しては、ご家族等から情報を聞き取る事で、ご自分で決めて頂くように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合った時間や習慣で過ごして頂ける様に支援している。食事等も、体調や気分によって利用者様の希望にそって提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で着たい服を選んで頂き、外出の時などは化粧をしたり、スカーフをまいたり、帽子を被ったりと、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けと利用者様個々に合わせて、得意な事を活かして頂きながら職員と一緒にしている。食事の時には、各テーブルに職員が付き、一緒に食事を楽しんでいる。	季節の物や家庭菜園の野菜、近所からの頂き物等活用し、利用者は調理や盛り付けなど得意とすることを行っている。職員は弁当を持参し利用者とともに食事を楽しんでいる。手作りケーキやお寿司等の行事食も楽しんでいる。老健の栄養士が栄養管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考え作っている。水分補給の介助や声掛けも細めに行っている。毎食後は摂取量を把握し、記録に残し職員間で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。利用者様の1人1人の状態に応じて、見守りや介助をする事で口腔内の清潔保持が出来る様に支援している。また、月に2回、訪問歯科も行っており、歯科医との報告・相談・連絡も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、個々に合った声掛け、誘導を行っている。トイレでの排泄が出来る様に支援している。	排泄チェック表に基づく排泄パターンや、利用者の仕草でトイレ誘導している。特に便秘予防を重視しており、運動の実施やセンナ茶の提供など工夫している。きめ細かな支援により、入居時のリハパンから布パンに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分の促し、バランスの良い食事を提供している。便秘気味の方にはセンナ茶を提供し、下剤には頼らないような支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回の入浴だが、希望があれば対応している。ゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様に支援している。	2日に1回の入浴が基本で、一人づつお湯を取り替えている。入浴拒否の方には、時間や職員を変えたり、「体重を量ろう！」「明日お客様が来るよ！」など声掛けの工夫をしている。シャンプーなど使い慣れた物を個人個人で用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に合わせて、休息する時間を作れる様に支援している。安心して休んで頂ける様に、寂しい方には職員が添い寝等の支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を各個人ファイルに綴り、すぐに確認出来る様にしている。処方内容に変更があった場合は、連絡ノートで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドを活かし、1人1人が得意な事を発揮出来る様に支援している。趣味活動や散歩、外出行事も行い楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や、近くの店まで買い物に出かけている。外出行事では、ご家族にも参加して頂く時もある。	日常的には、プランターへの水やりやゴミ出し、ホーム周辺の散歩や近くのホームセンターへの買い物に出かけたりしている。家族の協力を得て、元朝参り、どんと祭、花見、定義参り等に外出支援している。家族と温泉旅行や墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設管理であるが、出張パン屋さんが来館した時には、お金をご本人に預けて金銭のやり取りをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送ったり、ご家族と定期的にお手紙のやり取りを行っている方もおられる。ご本人の意思を確認しながら、電話でのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や職員が管理している。共有スペースには、季節感のある装飾や花などを飾り、季節感を味わって頂いている。	リビングや通路の窓が大きく、日差しが入り、風通しが良く、清々しい。Aユニットは数か所の天窓、Bユニットは中庭を配し、いずれもところが癒される空間作りとなっている。リビングには七夕飾りやあじさいなど利用者が作った季節感あふれる作品が飾られてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下のスペースに椅子を置き、1人で過ごしたり、気の合う方と過ごして頂くように環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物、思い出の物を持参して頂いている。ご家族の協力のもと、ご本人が安心して過ごせる様に居心地の良い環境作りに努めている。	和室と洋室があり、各居室に冷暖房が完備され、洗面台があり、木の表札が掲げられている。座椅子やテレビ、ラジオ、家具など馴染みの物を持ち込み、動線に配慮した配置になっており、安心して過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じながら、見守りや声掛け、介助等を行い、ご本人の持っている残存能力を見極めながら過剰に介護しない様に支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0475300430		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	くつろぎ保養館仙台東		
所在地	宮城県仙台市若林区長喜城字宮浦27-5		
自己評価作成日	平成25年6月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=0475300430-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=0475300430-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成25年7月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・明るく温かい家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様に合わせ1人1人、ご自分のペースで生活が送れる様に支援しています。</p> <p>・個々の能力を見極め、得意な事を発揮して頂き、出来る事や役割を持ち続ける事で、自分らしい生活が送れる様に支援しています。</p> <p>・利用者様、ご家族様にとって、居心地の良い生活の場を提供しています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所の南側には田園風景が広がるのどかな環境である。西側は造成中で復興住宅やスーパーが出来る予定である。敷地内には同法人の老健施設が併設され、研修や避難訓練を合同で行うなど協力関係ができています。「住み慣れた地域で自分らしく生活を送り、地域の中の一員として、一緒に歩んでいきます」の理念を掲げ、野菜を頂いたり、散歩時に挨拶を交わすなど、地域の方と馴染みの関係ができています。利用者が今年の目標を掲げたり、短冊に「願い事」を書くなど、生活に張りが持てるように工夫されており、訪問者にお茶運び、プランターの野菜を収穫するなど、穏やかな暮らしがうかがえた。利用料を直接事業者への支払いにし、家族が参加し易いように運営推進会議の日程を変更するなど、家族・利用者・職員がコミュニケーションを図れるように、また、ケアの質を高める為に職員は資格取得に向け努力している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 くつろぎ保養館仙台東 ）「ユニット名 Aユニット 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差したくつろぎ独自の理念を掲げ、ユニット会議や、日々のケアの中で地域の中の一員として生活が送れる様に支援している。	「住み慣れた地域で、自分らしく生活を送り、地域の中の一員として、地域の方と一緒に歩んでいきます」の理念を各ユニットに掲げ、ユニット会議や職員会議で都度確認している。地域との交流や利用者がその人らしく自己決定できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や市民センター便り等で、地域の情報を得ている。また、施設周辺を散歩したり、地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話をする事もある。	町内会に加入し、回覧版にホームの夏祭りを掲載したり、地域の情報を得ている。夏祭りには地域の方も一緒に参加し、月2回、歌や紙芝居、傾聴ボランティアが来て交流している。散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂くなどお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の面会時や、運営推進会議等で認知症の方への関わり方をアドバイスしたり、相談したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。会議で提案された事や助言については、会議録をご家族や地域の方々に配布し、サービスの向上を目指している。	町内会長、包括職員、家族、民生委員、職員が参加し年6回開催、家族が参加し易い曜日に変更した。外部評価や避難訓練の報告、利用者のホームでの生活の様子などを写真で紹介し、理解が深まるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や生活保護課の担当者と連絡、相談を行っており、協力関係を築けている。	「まもりーぶ」利用や、介護認定の変更に関わる相談など、介護保険課や生活保護課と日頃から協力連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、利用者様、1人1人に合った寄り添うケアをする事によって、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害について研修し、参加者全員がレポートを提出している。施錠は20時～7時迄で、玄関にセンサーを設置している。帰宅願望の強い方には傾聴し受容するように努め、気を紛らわせるよう工夫している。利用者への目配りなどの、地域の協力を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、職員1人1人が、高齢者虐待防止関連法について勉強する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修に参加している。また、利用者様の中にまもり一歩を利用されている方がおり、利用者様1人1人にあった、制度の活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、1つ1つ丁寧に説明している。分からない部分があった時には、時間をかけ説明する事で、理解されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中で要望等をお伺いしている。ご家族は、面会時にゆっくりと話をする時間を設け要望やご意見を伺っている。	家族が毎月の利用料を持参しての訪問時に、意見や要望を聞いたり、運営推進会議などで情報交換をしている。家族アンケートでも「職員は話しを聞いてくれる」との記述がある。介護度の区分変更に関しての不満や相談にも丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内で出た意見や提案は、その都度報告し、職員から出た意見を運営に反映させている。	ユニット会議や職員会議で意見や要望を聞いている。傾聴ボランティアと利用者との接し方や利用者の1日のスケジュールに関してなど提案あり、検討した。各種委員会が、職員の提案の場にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回、自己評価と共に人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老健と協力しながら、月に1回研修会を実施している。また、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し研修会や交流研修に参加し、より良い施設作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご要望やバックグラウンドを職員間で共有し、利用者様に寄り添いながら安心して生活を送って頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の利用者様に対する思いや要望をお伺いし、その思いを職員間で共有しながらより良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1人1人の状態や状況を職員間で話し合いながら、その方が今一番必要としているケアを見極めケアを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や本人の趣味活動等を一緒に行う事で、共に生活をする一員として過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様への思いを、ご家族と共有し、ご協力を得ながら一緒にご本人を支えていける様に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や、ご本人がそれまでに築いてきた関係の方々と年賀状、手紙、はがきのやり取りを行っている。また、電話でご家族と話をするなどやり取りも行い、関係が途切れない様に支援している。	自宅が若林区の利用者が多く、家族や友人などの訪問が多く、お茶を飲みながら、和やかに懇談できるように支援している。馴染みの長喜城神社に散歩する事が多い。馴染みの方がホームでカットしてくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒に作業を行い、1人1人に合った得意分野で役割が持てる様に支援している。また、作業の中で出来る方が、困難な方に対して手助けして頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移ってしまった方の面会を行っている。また、何かあった場合はいつでも相談して頂ける様に働き掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、希望や訴えを把握している。ご自分で訴える事が困難な利用者様に対しては、ご家族からも情報を頂いたり、日常生活の中での表情や行動から汲み取る様にしている。	入居時、家族から利用者の生い立ちなど情報を得て、理解し、ケアに活かしている。会話の困難な利用者には表情、行動、しぐさから何をしたいかをくみ取り、癖や習慣などを記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを活かし、ご本人やご家族からの情報を職員間で把握し共有する事で、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を把握し、ご本人に合った生活リズムで生活が送れる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、職員間で情報を集め会議で話し合いを行い、ケア内容を検討しながらケアプランを作成している。	毎月モニタリングを行い、カンファレンスを開き、3ヶ月に1回は再アセスメント、ケアプランの見直しを行っている。家族や職員の意見も参考にし、細やかなケアプラン内容になっており、家族への説明と同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常記録や個人ノートを活用し、職員間で把握、共有している。また、その内容をケアプラン作成時の見直しに活用出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に応じ柔軟なサービスを受ける事が出来る様に支援している。また、介護保険以外のサービス(医療保険での訪問リハビリ、訪問医療)も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や市民センター便り等で、地域の情報を得ている。地域の行事などに参加出来る様にチェックしている。地域の傾聴ボランティアさんに月に2回来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関で受診する事が出来ている。ご家族対応での病院受診の時には、施設での様子を伝える事により関係を築けている。	利用者の希望するかかりつけ医で、受診は家族が付き添う事になっている。受診結果は口頭で報告され、記録している。利用者の状態によっては老健の医師からアドバイスをもらう事がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおらず。受診時は係りつけ医に日常の様子を報告したり、訪問医師に報告したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にお見舞いに行き、病状などの情報収集を行っている。病院関係者や看護師等とも情報交換を行い、退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化については、その都度ご家族に報告している。グループホームでの生活が困難になってきた場合も、施設で出来る支援の説明を行い、ご家族と共有している。	看取りの実績はない。入居時に、事業所として重度化した場合の対応に関して、家族、主治医、職員の三者で話し合い、出来る事と出来ない事をその都度、口頭で説明をしている。	重度化した場合の対応方針を具体的に明文化する事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を行っている。新人職員も夜勤業務に入る前に応急手当の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を行っている。毎回、反省や改善点を職員で話合っている。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成している。毎月1回避難訓練や夜間想定訓練、年2回は老健施設との合同訓練を実施している。定期的な訓練が利用者にも定着し、素早く対応できるようになってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、その方の馴染みの言葉(なまり、方言)で分かりやすい様に話かけを行っている。	入職時に接遇についての研修を行っている。呼び名は本人に確認するなど、利用者や家族に対する言葉遣いや接し方に配慮している。利用者間の様子に気を配り、トイレ誘導はさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を話して頂ける様に声掛けを行っている。表現する事が困難な方に対しては、ご家族等から情報を聞き取る事で、ご自分で決めて頂くように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合った時間や習慣で過ごして頂ける様に支援している。食事等も、体調や気分によって利用者様の希望にそって提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で着たい服を選んで頂き、外出の時などは化粧をしたり、スカーフをまいたり、帽子を被ったりと、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けと利用者様個々に合わせて、得意な事を活かして頂きながら職員と一緒にしている。食事の時には、各テーブルに職員が付き、一緒に食事を楽しんでいる。	季節の物や家庭菜園の野菜、近所からの頂き物等活用し、利用者は調理や盛り付けなど得意とすることを行っている。職員は弁当を持参し利用者とともに食事を楽しんでいる。手作りケーキやお寿司等の行事食も楽しんでいる。老健の栄養士が栄養管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考え作っている。水分補給の介助や声掛けも細めに行っている。毎食後は摂取量を把握し、記録に残し職員間で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。利用者様の1人1人の状態に応じて、見守りや介助をする事で口腔内の清潔保持が出来る様に支援している。また、月に2回、訪問歯科も行っており、歯科医との報告・相談・連絡も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、個々に合った声掛け、誘導を行っている。トイレでの排泄が出来る様に支援している。	排泄チェック表に基づいて、利用者の仕草や行動でトイレ誘導し、特に排便チェックを重視している。便秘予防に運動の実施やセンナ茶を飲んでいる。きめ細かな支援により、入居時のリハパンから布パンに代わって、家族からも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分の促し、バランスの良い食事を提供している。便秘気味の方にはセンナ茶を提供し、下剤には頼らないような支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回の入浴だが、希望があれば対応している。ゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様に支援している。	2日に1回の入浴で、一人ずつお湯を取り替えている。入浴拒否の場合は時間や職員を変えたり、「体重を量ろう！」「明日お客さんが来るよ！」など声掛けして入浴支援をしている。シャンプーなど使い慣れた物を個人個人で用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に合わせて、休息する時間を作れる様に支援している。安心して休んで頂ける様に、寂しい方には職員が添い寝等の支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を各個人ファイルに綴り、すぐに確認出来る様にしている。処方内容に変更があった場合は、連絡ノートで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドを活かし、1人1人が得意な事を発揮出来る様に支援している。趣味活動や散歩、外出行事も行い楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や、近くの店まで買い物に出かけている。外出行事では、ご家族にも参加して頂く時もある。	日常的には、プランターへの水やりやゴミ出し、ホーム周辺の散歩や近くのホームセンターへの買い物に出かけたりしている。家族の協力を得て、元朝参り、どんと祭、花見、定義参り等に外出支援している。家族と温泉旅行や墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設管理であるが、出張パン屋さんが来館した時には、お金をご本人に預けて金銭のやり取りをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送ったり、ご家族と定期的にお手紙のやり取りを行っている方もおられる。ご本人の意思を確認しながら、電話でのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や職員が管理している。共有スペースには、季節感のある装飾や花などを飾り、季節感を味わって頂いている。	リビングや通路の窓が大きく、日差しが入り、風通しが良く、清々しい共用空間となっている。Aユニットは数か所の天窗、Bユニットは中庭を配し、いずれもところが癒される空間作りとなっている。リビングには七夕飾りやあじさいなど利用者が作った季節感あふれる作品が飾られてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下のスペースに椅子を置き、1人で過ごしたり、気の合う方と過ごして頂くように環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物、思い出の物を持参して頂いている。ご家族の協力のもと、ご本人が安心して過ごせる様に居心地の良い環境作りに努めている。	畳の和室と洋室があり、各居室に冷暖房が完備され、洗面台がある。木の表札が掲げられている。座椅子やテレビ、ラジオ、家具など馴染みの物を持ち込み、同線に配慮した居室になっており、安心して過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じながら、見守りや声掛け、介助等を行い、ご本人の持っている残存能力を見極めながら過剰に介護しない様に支援している。		